

民俗行事の発見と流通

——市原のオコナイの記述と写真をめぐって——

鵜飼 正 樹

1 書かれたオコナイ

3 小 括

2 撮られたオコナイ

論文要旨

私が生まれ育ち、そして現在も住み続けている滋賀県甲賀郡甲南町市原は、毎年1月13日に、「滋賀県湖南地方のオコナイの代表的なもの」がいとなまれるところとして、民俗学では有名である。ところが、この市原のオコナイが民俗学で注目されるようになったのは、昭和40年代以降のことで、それ以前には地元郡誌、町史のたぐいにもその記述を見出すことはできない。つまり、市原のオコナイは高度経済成長期に「発見」されたものなのである。

この論文では、市原のオコナイがどのようないきさつで民俗学的に「発見」され、「湖南のオコナイの代表的なもの」と評価されるようになったのかをまず明らかにする。ついで、市原のオコナイに関する記述や写真を詳細に検討し、そこに現われた民俗学的イデオロギーを考える。

全体の結論を先取りしていっておけば、市原のオコナイに関する民俗学的記述は、相互に批判しあうこともなく、程度の低いものがただタレ流されているだけの、「意味なき蓄積」としかいいようのないものに終わっている。